

民泊の見守り・管理参入

ALSOKやセコム 苦情対応など

警備大手の総合警備保障（ALSOK）やセコムが一般住宅に旅行者を有料で泊める「民泊」向けの見守り・管理サービスに参入する。訪日客急増を受け、民泊の規制緩和が進むが、犯罪発生や宿泊者のマナー違反を懸念する声も根強い。苦情対応や警備、災害時の安否確認などの一括提供で不安を和らげ、民泊の普及を後押しする。

有料で繰り返し宿泊客の運営者にサービスを受けるには旅館業法の許可が必要だが、政府が規制を緩める国家戦略特区制度を活用し、東京大田区や大阪府が民泊を広げようとしている。特区とは別に民泊を認める規制緩和も進んでおり、両社は合法的な民泊の運営者にサービスを始める。5月からサービスを始めるALSOKは近隣向きのコールセンターを置き、24時間体制で苦情に視し、非常時に警備員が駆けつける警備は月3千円からとなる。

ほかに火災報知機や消火器、金庫、防災カーテン、体調急変に備えた自動体外式除細動器（AED）も提供する。スマートフォン（スマホ）で鍵を開閉するスマートロックの設置や、建物の点検もサービスに加える考え。セコムは今夏をメドにサービスを始める。防犯カメラによる監視にとどまらず、暗証番号で開ける電子錠を提供し、鍵の紛失や複製による悪用を防ぐ。



合法的な民泊の普及を後押しする（東京都大田区内の物件）

民泊にまつわる不安を和らげる（主な提供メニュー）

総合警備保障（ALSOK）	セコム
- 苦情対応 - 防災設備や金庫などの設置 - スマートロック提供 - 劣化防止の点検 - 防犯カメラで不審者の出入り監視	- 災害時の安否確認システム - 損害保険 - 電子錠提供 - 室内の破損箇所の修繕

傘下の損害保険会社で家財の破損や盗難に備える保険も用意する。宿泊者が外出中に災害に遭遇した場合、民泊運営者や宿泊者の間で安否確認をスマホ上でできるシステムを提供する。価格は詰めているが、専門業者と個別に契約するより割安となる見通しだ。民泊の仲介や運営に参入する企業が登場しているが、特区で認定された民泊はまだわずか。短期の民泊を認めないハードルの高さなどが一因とされるが、宿泊者のマナー違反や事件・事故の発生を不安視する声もある。実際にこうした懸念から民泊利用を禁じるマンションもある。

ただ訪日客増加による宿泊施設の不足は今後も続くため、民泊は拡大が見込まれる。ALSOK、セコムの両社は、警備会

社のノウハウで民泊に伴う不安を解消するサービスは今後成長すると判断した。室内の清掃や建物劣化・破損した場合の補修なども合わせて提供し、民泊にまつわる運営者のニーズに対応していく考えだ。